

清流



平成31年 3月 8日 文責 石丸 慎也

春のまざし

学校の花壇に目をやると、昨年末に手植えしたチューリップの芽がすでに顔を出しています。どの学年の花壇のチューリップも、間近に迫った卒業式や4月の入学式に合わせるかのように、日々ゆっくりとした早さで成長しています。



これらチューリップの球根は昨年度咲いた花からとれたものや今年度地域の方からいただいたもので、たくさんの開花が期待できそうです。やはりこの時期、小学生の子ども達には色とりどりに咲き誇るチューリップの花が似合います。子ども達も開花を待ち望んでいます。

新たな学習指導へ向けて ～ 国語と外国語

ご存じのように新しい学習指導要領の実施が2020年に迫り、現在そのための移行措置に取り組んでいるところです。新聞等でも公表されてきましたが、今回「国語」と「外国語」について少しお知らせしたいと思います。

国語では、読解力向上へ向けた語彙指導の充実と「原因と結果」など文章中の情報同士の関係を把握する力の育成などが打ち出されています。また漢字指導においても配慮がなされています。

	取り扱われる漢字
4年生から5年生へ移行	圀, 紀, 喜, 救, 型, 航, 告, 殺, 士, 史, 象, 賞, 貯, 停, 堂, 得, 毒, 費, 粉, 脈, 歴
4年生から6年生へ移行	胃, 腸
5年生から6年生へ移行	恩, 券, 承, 舌, 銭, 退, 敵, 俵, 預

外国語については、3～4年生が「外国語活動」を学びます。そこでは「聞くこと」と「話すこと（やりとり、発表）」を中心に力を身につけていきます。コミュニケーションを図る素地を育成することを目的としています。

5～6年生は「外国語」を学びます。外国語活動をふまえ、段階的に「読むこと」と「書くこと」が加わります。日本語との違いや特徴に気づかせ、コミュニケーションを図る基礎となる資質や能力の育成を目指します。

3月11日は「自分をふり返る日」

今から8年前、東北地方太平洋沖で地震が発生し、津波による甚大な被害が発生しました。皆様におかれましてもその日のことは鮮明に覚えておられるのではないのでしょうか。大地震や津波の被害による現地の方々の暮らしはまだ完全復旧という状況にまでは至っていません。

この地震や津波が発生したとき、遠く九州地方で暮らす私たちは自らの生活についてふり返ったことを覚えています。ものの無駄遣いはしていないか、 unnecessaryなものを買っていないか、持ち物を大切にしているかなど、東北地方に住んでおられる方々に対して心を寄せました。その3月11日がもうすぐやってきます。

場所は異なりますが、同じ大震災の被害があった神戸市に住む小学生の詩を紹介します。

大震災

神戸市立成徳小学校 6年 羽田 奈央

わたしたちは、大震災を知らない。
わたしたちは、震災後の生活を知らない。
わたしたちは、震災で苦労した人達を知らない。
わたしたちは、安全な日常しか知らない。
わたしたちは、ぜいたくしか知らない。
わたしたちは、温かい家しか知らない。
わたしたちは、おいしいごはんしか知らない。
だから、それではいけない。
大震災で亡くなった人たちを考えよう。
大震災でたいへんだった人たちを考えよう。
大震災への意識を変えよう。
大震災にあったらたすけられる人になろう。
わたしの町がたすけられたように。



校長室から

以前、寄贈してもらったお手玉について紹介した。下村老人クラブの方々の手作りによるものだ。今、職員室前の学習コーナーに置いているが、そこを通った子ども達の多くが必ずといっていいほど手にし、お世辞にも“うまいとは言えないお手玉”に挑戦するようすが見られる。地域と子ども達の確かなつながりを感じる。